

さくらほっと NEWS

vol.41

平成29年秋号



呼吸器外科のメンバー

後列左から渡邊医師(病院助教)、坂根医師(病院助教)、奥田医師(講師)、川野医師(病院講師)
前列左から森山副部長(准教授)、中西部長(教授)、小田医師、羽田医師(講師)

肺がんに対する 胸腔鏡手術への取り組み

.....2
名市大病院のチカラ vol.93

前立腺がんの検査について先進医療の認定を受けました...4
白斑や難治性皮膚潰瘍などに対する
培養表皮移植(再生医療)を開始
市民公開講座・セミナーのご案内

国の方針に基づき、地域医療連携を推進しています。

国の方針▶医療機関の機能分化

特定機能病院(名古屋市立大学病院)

入院や手術などの専門的な診療・検査を含む高度先進医療を担当

地域の医療機関(かかりつけ医)

風邪などの日常的な病気や症状が安定した慢性疾患などの患者さんに対する医療を担当

地域医療連携の推進

診断が確定し症状が安定した患者さんは地域の医療機関にご紹介しております。

※症状が悪化した場合などは、改めて名古屋市立大学病院へ紹介されます。



肺がんに対する胸腔鏡手術への取り組み

がんは日本人の死因の約30%を占め、最も多い死因となっていますが、その中でも『肺がん』による死亡が最も多いことをご存知でしょうか？今回は、その肺がんに対し積極的に『胸腔鏡手術』を実施している呼吸器外科の取り組みをご紹介します。

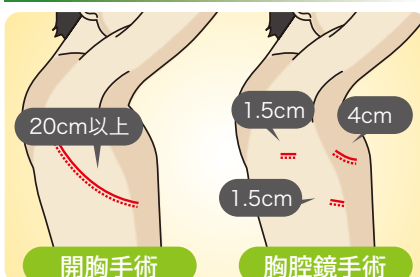
■当院で積極的に取り入れている『胸腔鏡手術』

肺がん治療の中で大きな割合を占めるのが手術ですが、この手術には「開胸手術」と「胸腔鏡手術」があります。

以前は背中から脇の下にかけて20cm以上の切開が必要な開胸手術が中心でしたが、現在、当院では内視鏡を胸に入れて行う**胸腔鏡手術**が可能な患者さんに対し、ほとんどのケースで実施しています(平成28年度:104件(96%))。胸腔鏡手術は、胸の横に3カ所の切開をするだけで済むため、術後の傷や痛みが少ないだけでなく、合併症の発生頻度やその後の肺機能にも良い影響があるとされています。

その一方で、モニターを見ながら行うため視野が限られており、**高度な技術や豊富な経験・知識を持った医師が行う必要**があります。

傷あとの違い



開胸に比べ、胸腔鏡手術の傷あとは非常に小さくなります。

■高齢者には『胸腔鏡手術』がおすすめ

超高齢化社会が進むにつれ、肺がんの患者数が増えています。これは、肺がんが年齢を重ねることにかかりやすいがんであるためです。高齢者の多くは複数の病気を患っていることが多いため、開胸手術に比べ体の負担が少ない胸腔鏡手術を実施するメリットが大きいと言われています。

■4K内視鏡手術室を積極的に活用

今年4月には、4K(※)内視鏡手術室が稼働し、この手術室でも肺がんに対する胸腔鏡手術を実施しています。

これまでよりも精細な画像で手術映像を確認できるため、より高度かつ精密な手術が可能になると考えています。

※「4K」とはフルハイビジョン(1920×1080画素)の4倍(3840×2160画素)の画素数を備える高画質映像システム



4K内視鏡手術室

照明を青くすることで、手術映像をより鮮明に見ることができます。

■進行肺がんに対する胸腔鏡手術にも取り組む

高度な技術や豊富な経験・知識を持った医師を中心に、我々は引き続き早期肺がんに対する胸腔鏡手術を積極的に行っていきます。

また、**進行肺がんに対しても胸腔鏡手術は有益と考え、厚生労働省への先進医療の新規申請も視野に入れながら実施**しています。

この地域の呼吸器外科診療を中心的にリードしてきた診療科として、今後もチーム一丸となって研鑽を積み、最適・最善の医療を患者さんに提供してまいります。



呼吸器外科
中西部長

名市大病院のチカラ Vol. 9

内分泌・糖尿病内科 糖尿病短期入院クリニカルパスを作成し、より良い糖尿病治療の提供を目指す



内分泌・糖尿病内科
今枝部長

糖尿病は脳卒中や心筋梗塞だけでなく、失明や腎不全も引き起こす万病の元です。しかし糖尿病自体は自覚症状に乏しいことが多く、自身の状態を把握することは難しいのが現状です。

糖尿病を調べるための入院は多くの病院で行っていますが、一般的な期間は2週間と長く、患者さんにとって大きな負担となっています。

当科では、このたび「4泊5日糖尿病短期入院クリニカルパス(※)」を実用化しました。優れた特徴として、①入院期間が短い(月曜日入院→金曜日退院の4泊5日)、②短期間でありながら効率的に合併症の有無や状態をチェックできる、③持続血糖モニター【写真1】を装着し、入院中の詳細な血糖値が一目瞭然になることなどが挙げられます。この入院コースは、仕事が忙しい方や低血糖が心配な方など、あらゆる患者さんの要望に応えるものと考えています。

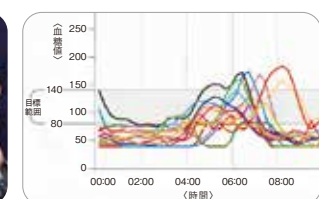
「一病息災」という言葉をご存知かと思います。何

か一つ持病がある方が体をいたわるので、かえって大病を患わず長生きできるという意味です。全ての患者さんが自身の糖尿病をポジティブに捉え、「あなたの糖尿病まるわかり入院」と名付けたこの入院クリニカルパスを広くご利用いただけるよう、スタッフ一同尽力してまいります。

※クリニカルパスとは入院中の検査や治療などをまとめたスケジュール表のこと。このスケジュール表を活用することで、患者さんに分かりやすく質の高い医療を提供することができます。



【写真1】▲持続血糖モニター



▲血糖値の記録結果

腕に500円玉大の機器を装着することで、右図のように15分毎の血糖値を最長14日間記録できます。(痛みはありません)

いたみセンター 多職種による専門的な診療で「いたみ」へアプローチ



いたみセンター
祖父江センター長

今年4月1日、従来の麻酔科のペインクリニックをより発展させ、「いたみ」に対する多職種で専門的な診療を行う「いたみセンター」を設立しました。

当センターでは、病名ではなく、痛みの経過が3ヶ月未満のもの(急性痛)と、3ヶ月以上のもの(慢性痛)に分けて診療を行っています。

急性痛の診療は早期の対応が必要なため、月曜日～金曜日の午前に行っています。

一方、慢性痛の診療は多職種による評価が重要なため、木曜日の午前の「慢性痛初診外来」で行っていますが、初診に2～3時間かかるため、週に1名のみお受けしています(完全紹介・予約制)。

センターには、麻酔科医、精神科医、リハビリ医、神経内科医、脳神経外科医、整形外科医、看護師、薬剤師、理学療法士、臨床心理士などの多職種が参加しています。患者さんに合う治療(神経ブロック、薬物療

法、心理療法、運動療法・リハビリテーションなど)を皆で検討し、各診療科とも連携して診療を進めています。この取り組みは、慢性病に係る医療人育成に寄与するものとして、文部科学省からの支援も受けています。なお、原則として、当センターでの治療後には、紹介元の病院や診療科に戻っていただきますので、その点ご了承ください。

生まれたばかりの組織ですので、受け入れられる患者さんの数には限りがありますが、少しずつ着実に発展していきたいと思っています。ご理解のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。



多職種によるカンファレンスを定期的に開催し、より良い医療を提供できるよう取り組んでいます。

中部地域
初

前立腺がんの検査について先進医療の認定を受けました

厚生労働省が定める下記の先進医療について、6月1日付けで当院が実施医療機関として認められました。当該技術の実施医療機関として認められるのは、**中部地域で初めて**となります

- 診療科：泌尿器科
- 技術名：MRI撮影及び超音波検査融合画像に基づく前立腺針生検法
- 適応：前立腺がんが疑われる患者さん
- 概要：MRI検査画像と超音波検査画像を最新機器「BioJet(バイオジェット)システム」で同期させて実施する検査で、超音波検査画像のみで行う従来の方法に比べ、より小さながんも発見できます。
- 費用：102,120円



使用する最新機器
BioJet システム

大学病院
初

白斑や難治性皮膚潰瘍などに対する培養表皮移植(再生医療)を開始

再生医療のひとつである培養表皮移植(※)は、現在、重症熱傷などに対して行われていますが、当院は尋常性白斑や難治性皮膚潰瘍、改善が困難な瘢痕(はんこん)に対しても有効であると考え、7月より治療を開始しました。

この取り組みは**大学病院としては日本初**であり、約20件の治療を実施した後、新規の先進医療として厚生労働省に対し申請する予定です。

※患者さん自身の体の一部(わきの下や患部周辺など)から皮膚を採取し、それを培養して作成したシート状の皮膚を患部に移植するという治療法です。

- 費用：約50万円から
※使用する表皮シートの数や入院の要否によって金額が変わります。
※自由診療として行うため、健康保険証はお使いいただけませんが、費用の一部を軽減させていただきます。
- この治療を受けるためには
まずは当院皮膚科をご受診ください。
(できる限り紹介状をお持ちください。)
外来におきまして、治療対象となりうるかなどの確認をさせていただきます。

治療の効果(尋常性白斑の患者さん)



《治療前》



《治療後》

培養表皮シート

これを患者さんの患部に移植します



市民公開講座・セミナーのご案内

●市民公開講座

日付	時間	会場(定員)	診療科	講演者	タイトル	問い合わせ先
8月20日(日)	13:30~15:00	4階 第1会議室(100名)	脳神経外科	助教 西川 祐介 助教 大蔵 篤彦	名古屋市立大学で受けよう最新治療	医学研究科 脳神経外科学 Tel:052-853-8286
9月12日(火)	14:00~15:30	3階 大ホール(300名)	整形外科	未定	リウマチ療養相談会	医学研究科 整形外科 Tel:052-853-8236
9月17日(日)	13:30~16:00		腎臓内科		患者さんと御家族のための腎臓病セミナー	医学研究科 心臓・腎高血圧内科学 Tel:052-853-8221
10月29日(日)	13:30~15:30		循環器内科		高血圧の管理と健康長寿	
11月18日(土)	13:30~15:30	さくら講堂(200名)	救命救急センター	副センター長 松嶋 麻子 看護師 稲尾 景子	地域包括ケアと救急医療	事務局学術課 公開講座担当 Tel:052-853-8308 ※事前申込制・有料(500円)
11月19日(日)	10:30~12:10	3階 大ホール(300名)	消化器内科	未定	炎症性腸疾患に関する医療講演会	医学研究科 消化器・代謝内科学 Tel:052-853-8211

●患者情報ライブラリーセミナー

日付	時間	場 所	定員	内容	講演者	問い合わせ先
8月29日(火)	14:00~14:30	患者情報ライブラリー(病棟・中央診療棟B1階)	30名程度(先着順)	がん薬物療法とその向き合い方	化学療法部長 小松弘和	患者情報ライブラリー Tel:052-851-5511(代表)

※次回(10月開催)については当院ホームページ上でお知らせします。

11月18日(土)開催分を除き、全て事前申込不要(先着順)・費用無料ですので、どうぞお気軽にご参加ください。